

II 農場運営

1 総務事項

1) 人事異動

2013. 4. 1 新規採用
濱田 政敏：技能補佐員（入来牧場）
異動
木山 孝茂：共同獣医学部附属動物病院技術専門職員（前入来牧場技術専門職員）
濱田 延枝：学内農場農事部技術職員（前名古屋大学全学技術センター技術職員）
白坂 清春：入来牧場技術職員（前共同獣医学部附属動物病院技術職員）
配置換え
富永 輝：唐湊果樹園技術職員（前学内農場農事部技術職員）
鎌田 裕子：唐湊果樹園技術職員（前入来牧場技術職員）
勘米良祥多：指宿植物試験場技術職員（前唐湊果樹園技術職員）
2013. 6. 30 辞職
加世田素子：農場事務係事務補佐員
2013. 7. 1 新規採用
園田真由美：農場事務係事務補佐員
異動
半渡 聡：鹿屋体育大学学生課生活支援係主任（前農場事務係員）
新原 豊：農場事務係主任（前理工学研究科等理学系事務課学生係主任）
2013. 9. 30 辞職
城戸 麻里：学内農場農事部技術職員
濱田 政敏：技能補佐員（入来牧場）
2013. 11. 1 新規採用
関 綾子：技能補佐員（入来牧場）
2013. 12. 31 辞職
堀内由美子：農場事務係事務補佐員（唐湊果樹園）
2014. 1. 1 新規採用
津留見芳史：技能補佐員（学内農場農事部）
渡司 未帆：農場事務係事務補佐員（唐湊果樹園）

2) 技術職員研修

農場実習の高度化および充実を図るためには、技術職員の資質向上が不可欠である。農場では、技術職員の資質向上を最重要課題と位置づけて、以下のような各種の研修を実施した。

(1) 平成25年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修

- 期間 平成25年9月4日～6日
場所 宮崎大学
研修者 入来牧場 廣瀬 潤技術専門職員

3) 農場施設の利用

農場では、学外・内を問わず広く施設の利用を受け入れている。

(1) 学外

(学内農場農事部)

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成25年4月9～19日 156名
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気付き、季節感を養う。また、生き物の生態について調べると共に生き物採取を行う
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成25年4月19日 70名
内容：3年生の理科「春のしぜんへとび出そう」の学習として虫や植物の観察および採集をするため

Ⅱ 農場運営

- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成25年4月25日 68名
内容：2年生の生活科「春をさがそう」の学習で農場にある植物や虫などを観察して、春を実感できる活動を行うため
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成25年5月14日 19名
内容：校内スケッチ大会のため鹿大の建物、農場施設のスケッチをするため
- ・鹿児島市立甲南中学校
時期：平成25年5月14～16日 5名
内容：職場体験学習
- ・めぐみ幼稚園
時期：平成25年5月16日 54名
内容：幼児の体験活動のため（・芋の苗の植え方を知る・土の感触を味わう・自然の中でのびのびと遊ぶ）
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成25年6月4～28日 157名
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う。また、生き物の生態について調べると共に生き物採取を行う
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成25年6月20日 68名
内容：小学1年生の生活科の学習 田んぼや畑、草花の観察をするため
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成25年6月25日 69名
内容：第3学年 理科「こん虫を調べよう」の学習で、こん虫をさがしてつかまえ観察するため
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成25年7月3～19日 157名
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う。また、生き物の生態について調べるために生き物採取を行ったり、採取した生き物を自然に戻したりする
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成25年7月8日 70名
内容：「昆虫をつかまえて観察・飼育しよう」のねらいのもと、バッタ等の昆虫をつかまえるため
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成25年8月27～30日 159名
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成25年10月15日 67名
内容：生活科「生き物をさがそう」農園の草むらで虫をさがし、とって観察する
- ・めぐみ幼稚園
時期：平成25年10月29日 60名
内容：春に植えたいもを収穫する（いもほりの経験）秋の自然の中でのびのびと遊ぶ
- ・鹿児島大学教育学部附属中学校
時期：平成25年11月7～8日 5名
内容：職場体験学習
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成25年11月25～29日 159名
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成26年1月8～10日 158名
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う

- ・JA みなみ筑後柑橘部会青年部
時期：平成26年1月30日 25名
内容：視察研修（講義）
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校 158名
時期：平成26年3月20～24日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う

(学内飼育棟)

- ・鹿児島市立八幡小学校
時期：平成26年3月7日 123名
内容：課外授業の一環として、動物飼育棟で飼育している家畜（牛、山羊など）の見学

(唐湊果樹園)

- ・放送大学鹿児島学習センター
時期：平成25年7月6日 43名
内容：平成25年度1学期面接授業「鹿児島の果物（くだもの）栽培」講師：冨永茂人教授
- ・福岡苗木研究会
時期：平成25年8月9日 10名
内容：福岡県久留米市田主丸町に於いて主に果樹苗木を生産しており、今後の果樹苗木生産の参考にするため
- ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園
時期：平成25年11月1日 75名
内容：唐湊果樹園でのみかん狩り体験を通して、収穫の喜びを味わったり、大学の施設について知り、感謝の気持ちをもったりする。唐湊果樹園の野山の自然に親しむ
- ・鹿児島大学教育学部附属中学校
時期：平成25年11月7～8日 5名
内容：職場体験学習
- ・紫原幼稚園
時期：平成25年12月3日 60名
内容：園外保育での果樹園見学

(指宿植物試験場)

- ・指宿熱帯果樹研究会
時期：平成25年4月16日 11名
内容：地域貢献の一環として行っている熱帯果樹振興のための指宿熱帯果樹研究会の打合せのため
- ・上講中山間組合
時期：平成25年5月24日 26名
内容：試験場での試験されている様子などを視察するため
- ・熱帯果実振興会
時期：平成25年6月8日 11名
内容：地域貢献の一環として行っている熱帯果実振興のための現地検討会を開催するため
- ・自営業者
時期：平成25年6月20日 1名
内容：プルメリアの挿し木のため
- ・鹿児島県立農業大学校
時期：平成25年7月9日 11名
内容：熱帯果樹類の栽培について
- ・雲南農業大学
時期：平成25年11月11日 15名
内容：雲南農業大学学生交流プログラムによる雲南農業大学生受入による、南薩視察研修の一環としての施設見学
- ・指宿熱帯果樹研究会
時期：平成25年11月19日 21名
内容：地域貢献の一環として行っている熱帯果樹振興のため、試験場視察と現地検討会を開催するため

Ⅱ 農場運営

- ・指宿高校 3 年生
時期：平成26年 1 月21日 54名
内容：農場内の施設見学
 - ・ランドブレイン株式会社
時期：平成26年 2 月 6 日 20名
内容：地熱を利用した施設の見学
 - ・鹿児島大学 OB 会
時期：平成26年 2 月27日 4 名
内容：植物試験場の見学
 - ・熱帯果実振興会
時期：平成26年 3 月 8 日 13名
内容：地域貢献の一環として行っている熱帯果実振興のための現地検討会を開催するため
 - ・熱帯果樹研究会
時期：平成26年 3 月18日 21名
内容：地域貢献の一環として行っている熱帯果樹振興のための現地検討会を開催するため
- (入来牧場)
- ・みなまた環境塾
時期：平成25年 6 月25日 10名
内容：みなまた環境塾による解砕処理竹粉の飼料化試験見学
 - ・育児サークル
時期：平成25年 8 月28日 25名
内容：未就園児の牧場体験
 - ・NPO 法人りあすの森
時期：平成25年10月11日 2 名
内容：トカラ馬の見学
 - ・共同通信社 映像音声部
時期：平成25年11月25～26日 1 名
内容：報道 全国の地方紙，テレビ局，契約新聞社のネットなど新年の正月用に共同通信が配信する午年を扱った企画記事でトカラ馬を取り上げるため，その撮影・新聞用の写真とテレビ局用のムービーの撮影のため
 - ・鹿児島県環境技術協会
時期：平成26年 3 月 6 日 12名
内容：鹿児島県内のシカ害の現状把握のため
 - ・佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究所技術職員
時期：平成26年 3 月11～15日 1 名
内容：食肉加工技術および黒毛和牛の繁殖技術の研修のため

(2) 学内

(学内農場)

平成25年

- 4 月23日 作物生産学講座 研究室分けに関する最終説明会のため (24名)
- 5 月 7 日 作物生産学講座 3 年生研究室分けオリエンテーションのため (23名)
- 10月21～3 月31日 水田土壌における水銀のメチル化反応を確認するため，土壌の採取を行う。採取した土壌を利用し，実験室で水銀の添加，微生物の確認など様々な実験に利用する (3 名)
- 1 月17日 大学院授業の補講 (6 名)
- 2 月 8 日 作物生産学講座 修・卒論公開審査会に伴う交流会開催に利用するため (41名)

(動物飼育棟 (学内畜産部))

- 5 月 8 ～6 月20日 共通教育『有機農業Ⅲ 田んぼでアウトドア』の講義のため (12名)
- 6 月11～8 月31日 アポリポプロテイン(a) 遺伝子導入クラウン系ミニブタ雄の子供を得るために当該雄から精液を採取して人工授精する (1 名)

(唐湊果樹園)

- 4 月16～9 月20日 卒論・修論のため，ヤムイモおよびウコンの組織培養の実験 (6 名)

- 5月31～6月7日 樹木の同定実習を行う (28名)
 6月25日 樹木・草木, その他動物等の調査 (3名)
 10月8～3月14日 卒論・修論のため, ヤマイモおよびウコンの組織培養の実験 (6名)
 10月17日 「大学教育・専門研究能力強化及び普及活動の推進」コースに関わる研修 (ベトナムからの研修生にヤマイモの繁殖法として組織培養法の研修を行う) (3名)

(指宿植物試験場)

- 4月6～7日 ヤマイモ, ウコンの定植 (5名)
 4月13～14日 ヤマイモ, ウコンの定植 (5名)
 7月20～21日 ヤマイモ保存系統の管理 (1名)
 9月18日 植物生産学実地研修時立ち寄り (45名)
 10月15日 JICA ベトナム研修生によるヤマイモ類の保存状況視察 (4名)
 11月30～12月1日 ヤマイモ, ウコンの収穫 (9名)
 12月2日 JICA 九州からの依頼により, 鹿児島大学教育学部を中心として11月から12月にかけて4週間にわたって実施される「平成25年度地域別研修アフリカ地域教師教育(基礎教育分野(B))」の一環として利用する (22名)
 1月11日 ヤマイモ, ウコンの培養実験 (3名)
 2月21日 平成26年度用ヤマイモ保存系統の状況調査と塊茎の写真記録撮影 (3名)
 3月21～22日 保存用ヤマイモ, ウコンの消毒・圃場施肥と準備 (8名)

(入来牧場)

- 4月1～30日 餌作りのため (2名)
 4月4日 餌作りのため (2名)
 4月8日 平成25年度理学部物理科学科の新入オリエンテーションで入来牧場内天文観測施設(鹿児島大学1m光赤外線望遠鏡と国立天文台VERA入来局)見学を行うため (53名)
 4月10日 試験地のビデオ撮影のため (1名)
 4月12日 衛生管理のため (2名)
 4月13日 餌作りのため (1名)
 4月17日 試験地整備作業のため (8名)
 4月24日 試験区体尺測定のため (3名)
 4月24日 衛生管理のため (7名)
 5月1～31日 餌作りのため (1名)
 5月2日 半島部草地への資材運搬, 草地整備のため (7名)
 5月7日 餌おろし, 草地整備のため (5名)
 5月9日 半島部草地整備のため (3名)
 5月11日 草地整備のため (2名)
 5月12日 草地整備のため (4名)
 5月14日 山羊放牧地整備, 野草地整備のため (8名)
 5月15日 草地整備, 餌おろし放牧地への山羊放牧のため (9名)
 5月21～22日 24時間行動観察のため (12名)
 5月22日 試験地整備のため (9名)
 5月23日 試験地整備のため (2名)
 5月27～29日 採血, 背脂肪採取, 竹の運搬のため (8名)
 5月28日 半島部の試験地の植生調査のため (2名)
 5月29日 試験地植生調査 (6名)
 5月30～6月14日 解砕処理, サイレージ調整のため (12名)
 5月31日 試験地の植生調査 (6名)
 6月1～30日 餌作りのため (1名)
 6月4日 試験地整備のため (2名)
 6月5日 解砕処理, サイレージ調整, 試験地への山羊入牧, 試験地整備, 現存草量 (11名)
 6月5日 試験地の植物現存量調査, 試験地への山羊入牧 (7名)
 6月17日 ルーメン液採取のため (4名)
 6月18～19日 移植試験, 生調査, 試験地整備のため (11名)
 6月20～21日 体尺測定のため (2名)

Ⅱ 農場運営

6月22日	餌作りのため（1名）
6月23～29日	試験地見回り（3名）
6月26～27日	半島部の試験地見回り（1名）
6月26～7月26日	調査のため（1名）
6月29日	餌作りのため（1名）
7月1～31日	餌作りのため（1名）
7月2～7日	移植実験とその準備のため（6名）
7月2～27日	試験地見回り（11名）
7月4日	試験地見回り（1名）
7月7日	試験地見回り（1名）
7月9日	試験地見回り（1名）
7月9～10日	実験調査，試験地見回り，シバ生育調査のため（1名）
7月10日	放牧地下草管理のため（2名）
7月16～17日	実験調査，試験地見回り，シバ生育調査のため（2名）
7月23～24日	行動調査（6名）
7月27～8月26日	調査（カメラ，ビデオ管理），飼養管理，行動観察のため（2名）
7月30日	給与試験のためのススキの刈り取りのため（5名）
7月30～31日	試験地の植生調査のため（5名）
8月1日	試験地の植生調査のため（4名）
8月3～30日	試験地見回り（10名）
8月6日	試験地のシバ生育調査のため（1名）
8月7日	実験動物（ガチョウ）の肥育舎への導入（5名）
8月9～10日	試験地見回り，イベント補助のため（1名）
8月13日	試験地シバ生育調査（1名）
8月19～23日	卒業論文執筆のため（1名）
8月21日	試験地の山羊の行動調査のため（12名）
8月26日	理工学研究科の科学体験塾で入来牧場 VERA 望遠鏡と 1m 光赤外線望遠鏡を利用した観測を行うため（16名）
8月27～9月26日	調査（カメラ，ビデオ管理），飼養管理，行動観察のため（2名）
8月31日	放牧地の中でフラッグを用いてマダニを採取し，マダニの種類の同定とマダニの生態調査を行う（5名）
9月1日	試験地見回り（1名）
9月2～4日	牛の行動観察のため（5名）
9月3～28日	試験地見回り，植生調査（9名）
9月5～6日	入来牧場フェアに向けて，牧場体験により食育の意識を培うため（11名）
9月7日	試験地シバ生育調査（1名）
9月12日	牛の採血のため（3名）
9月15日	五大学交流会における牧場見学（55名）
9月16日	試験地シバ生育調査（2名）
9月18日	試験地見回り，シバ生育調査（2名）
9月20日	試験地見回り，シバ生育調査（2名）
9月26日	牛のルーメン液採取のため（4名）
9月27～10月26日	調査（カメラ，ビデオ管理），飼養管理，行動観察のため（2名）
9月30日	牛の体尺測定のため（2名）
10月1～6日	試験地見回りのため（1名）
10月8～9日	行動観察のため（1名）
10月9日，12日	試験地シバ生育調査（1名）
10月11～29日	試験地見回り，飼養管理（1名）
10月12日	放牧地の中でフラッグを用いてマダニを採取し，マダニの種類の同定と生態調査を行う。
10月15～21日	実験（アイガモの解体）のため（4名）
10月19日	試験地シバ調査のため（2名）
10月22～23日	試験地草刈り，整備（8名）

10月24日	実験の打合せのため（2名）
10月27～11月11日	調査（カメラ、ビデオ管理）、飼養管理、行動観察のため（2名）
10月29日	植生調査（2名）
10月30日	植生調査（3名）
10月31日	植生調査（6名）
11月3～22日	飼養管理（1名）
11月5日	理学部物理科学科（3年）の授業で入来牧場 VERA 望遠鏡と 1m光赤外線望遠鏡を利用した観測を行うため（28名）
11月9日	試験地シバ生育調査（1名）
11月11日	実験動物（ガチョウ）の退出（5名）
11月12～30日	試験牛の飼養管理（1名）
11月13日	試験地シバ生育調査、見回り（1名）
11月19～21日	実験（牛の解体）のため（10名）
11月23日	試験地シバ生育調査（2名）
11月27日	試験地柵撤去（5名）
11月27日	実験打合せのため（1名）
11月28日	牛の体尺測定（1名）
11月29日	卒業研究の打合せ（1名）
11月30日	山羊の飼養管理（1名）
12月1～31日	飼養管理（1名）
12月3～4日	山羊飼養管理（1名）
12月6～7日	試験地片付け（1名）
12月10日	試験打合せ（2名）
12月10～11日	行動観察（1名）
12月11日	餌おろし、山羊飼養管理、糞検、シバ試験地調査（2名）
12月11日	卒業研究の打合せ（2名）
12月12日	試験地片付け（4名）
12月12～24日	卒論研究（飼育動物の観察）（1名）
12月13～15日	牛の行動観察のため（13名）
12月14日	試験地撤去作業、見回り（1名）
12月16～17日	牛のルーメン液採取のため（4名）
12月16～18日	実験準備のため（スライドガラスの準備）（1名）
12月18日	牛、山羊の飼養管理（3名）
12月18日	山羊の飼養管理（1名）
12月20～21日	研究の検討会（21名）
12月21～23日	行動観察（1名）
12月25日	餌おろし（2名）
12月25～27日	牛の体尺測定のため（1名）
12月27日	試験地の見回り、下見（1名）
12月30日	実験補助（餌作り）（1名）
1月4日	実験補助（餌作り）（1名）
1月4～31日	牛の飼養管理のため（1名）
1月8日	実験補助（餌作り）（1名）
1月8日	餌おろし（3名）
1月10日	試験地の見回り、下見、山羊の飼養管理（1名）
1月14日	実験のため（肉のスライス）（2名）
1月16日	山羊運搬、山羊房掃除（3名）
1月18～24日	実験のため（筋肉組織切片の染色）（1名）
1月21～22日	作業手伝い、実験補助（餌作り・体尺測定）（1名）
1月22日	餌おろし（4名）
1月22～25日	試験地見回り（1名）
1月25日	実験補助（餌作り）（1名）

Ⅱ 農場運営

1月28～30日	実験のため（サンプル作り）（2名）
1月29～2月1日	試験地見回り（1名）
2月5日	餌おろし（4名）
2月5～8日	実験のため（筋組織切片の染色）（1名）
2月5～8日	試験地見回り（1名）
2月7日,12日,14日	試験の打合せ（1名）
2月8日	牛の飼養管理および餌作り（2名）
2月15日	牛の飼養管理および餌作り（2名）
2月18～21日	組織切片染色のため（1名）
2月19日	タイガー株式会社とシカ害防除に関する打合せ（4名）
2月19～20日	試験地整備作業，肥育牛飼料運搬（15名）
2月21日	牛の体尺測定（4名）
2月26日	牛の飼養管理，餌作り（2名）
2月26日	山羊の飼養管理（5名）
2月27日	実習補助（シカ害防除）（5名）
2月27日	牛の飼養管理および餌作り（1名）
3月5日	餌おろし（5名）
3月6～14日	試験地見回り，試験地整備，試験準備の打合せ（1名）
3月8日	牛の飼養管理，飼料調整，実験の片付け（2名）
3月10日	飼養管理（1名）
3月17日	衛生管理，飼入搬出（3人）
3月18～23日	試験地整備，試験計画打合せ（1名）
3月25日,27日,28日	試験地整備，打合せ（1名）
3月31日	体尺測定（4名）

4) 刊行物

鹿児島大学農学部農場技術調査報告書，第17号（2013.9）
鹿児島大学農学部農場年報，第8号（2014.3）
鹿児島大学農学部農場研究報告，第36号（2014.3）

5) 行事

4月3日，4日 展示即売会および市民農業講座
7月19日 学内農事部お田植え祭
11月22日 唐湊果樹園収穫祭

6) 平成25年度全国大学附属農場協議会

(1) 春季協議会

日 時：平成25年5月9日～10日
場 所：ホテルフロラシオン青山（東京都）
参加者：佐藤農場長，遠城農場主事

(2) 秋季協議会

日 時：平成25年11月5日～6日
場 所：RAKO華乃井ホテル（諏訪市）
参加者：佐藤農場長，松元技術専門職員

(3) 九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会

日 時：平成25年9月2日～3日
場 所：九州大学医学部百年講堂（福岡市）
参加者：佐藤農場長，城戸技術職員，石井技術職員

2 会計事項

1) 予算および決算

平成25年度の農場予算および決算は、第6表のとおりである。予算額105,306,930円に対し、決算額105,540,546円で、233,616円の不足が生じた。

第6表 平成25年度予算および決算

(単位：円)

施設名	当初配分額	追加配分額 および振替額	予算額	決算額	差引過不足額
農場実習経費	0	300,000	300,000	300,090	△90
農場実習支援経費	43,389,000	363,288	43,752,288	43,689,444	62,844
農場運営経費	48,968,000	10,252,642	59,220,642	59,512,540	△291,898
主事	400,000	580,500	980,500	980,560	△60
植物部門主任	400,000	108,500	508,500	508,500	0
動物部門主任	400,000	145,000	545,000	549,412	△4,412
合計	93,557,000	11,749,930	105,306,930	105,540,546	△233,616

2) 機械、設備および備品

本年度は、施設毎の機械、備品を中心に、第7表に示すように総額412,000円の予算を充当した。

第7表 平成25年度機械設備等の整備 (50万円以上 予算：自己収入)

機械設備名	メーカー・規格	数量	金額 (円)	施設名
ホイールローダー	ヤンマー V5-1-90-E	1台	412,000	入来牧場
			(総額4,944,000 5年リース)	
合計			412,000	

3) 施設整備

(1) 学内農場農事部

数年前より、作物生産に配慮した輪作体系を組み、田畑輪換も含めた作付け体系を実施している。しかし、元来が排水不良地であるため、畑作時における、湿害の発生がみられた。そこで、平成19年度の実習教育改善経費により、排水不良の2圃場(10号：約800㎡、と11号：約1,570㎡)に暗渠排水を敷設した。今後、輪作体系をみながら、2～3年の年次計画でその他の排水不良圃場にも同様の設備を敷設する予定である。

(2) 唐湊果樹園

ガラス温室北側パイプハウス一棟について、地床の除草後、防草シートを敷設し、その後農ポリビニールの天井張りを行った。このハウス内では、ブルーベリー、ブドウ、モモ等の苗床として使用している。

果樹園は敷地境界をフェンスで張り巡らせている。今年度、唐湊墓地との境界(果樹園側)に在る雑木から墓地への枝葉落下が問題となったため、境界際の立木を業者委託により伐採した。

(3) 指宿植物試験場

ここ数年、施設の加温に利用している温泉量が減少傾向にあるため、一部の温室やハウスでは、従来の温度確保がむずかしくなってきた。一時的な現象かどうかを見極める必要があるが、平成20年度に導入された「省エネルギー型生産技術開発システム」に利用する温泉量も減少しており、今後、湯量の確保に向けた方策が必要になる。

(4) 入来牧場

入来牧場管理棟は、竣工(1968)後、45年を経過し、壁面の亀裂、雨漏り等、老朽化が著しい。平成20年度には、平成19年度から繰り越した農場経費と大学本部経費により、女性用トイレと風呂の新設および職員室の改修を行ったものの、入来牧場管理棟2階部分(宿泊室、講義室)、1階部分(男子トイレ、風呂、食堂)および外壁の改修が課題として残っている。学生、外部利用者および教職員の安全性確保の観点から早急な全面改修が望まれる。

(5) 学内農場畜産部

動物飼育棟は築30年を経過し、雨漏りが頻発していたため、これまで部分的な補修を繰り返してきた。しかし、部分的な補修では改善が見られないことから、平成23年度末に附属演習林から予算借入れを行い、屋根の全面補修を行った。その結果、雨漏りは止まったものの、建物本体の劣化および排水等の問題は依然として残ったままである。

3 各種会議および委員会

1) 農場会議

(1) 委員名簿 (任期2年 2013年4月1日～2015年3月31日)

農場長 (議長)	佐藤 宗治
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
生物生産学科	
作物生産学講座	佐々木 修
園芸生産学講座	富永 茂人
病虫害制御学講座	津田 勝男
家畜生産学講座	岡本 新
農業経営経済学講座	豊 智行
生物資源化学科	大塚 彰
生物環境学科	岩崎 浩一
総務課長	上國料 宏

(2) 会議記録

第1回：平成25年9月4日 (水) 10時30分～11時05分

- 議題 1. 平成24年度附属農場決算 (案) について
 2. 平成25年度附属農場予算 (案) について
 3. 平成25年度後期農場実習 (案) について
 4. 平成25年度後期施設等利用計画 (案) について
 5. 入来牧場風力発電事業について
 6. その他

第2回：平成26年2月10日 (月) 11時50分～12時10分

- 議題 1. 残予算の用途について
 2. その他

第3回：平成26年3月19日 (水) 9時00分～9時40分

- 議題 1. 平成26年度前期農場実習 (案) について
 2. 平成26年度前期施設等利用計画 (案) について
 3. その他

2) 農場運営委員会

(1) 委員名簿 (任期2年 2013年4月1日～2015年3月31日)

農場長 (委員長)	佐藤 宗治
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
兼任教員	下田代智英
兼任教員	山本 雅史
兼任教員	高山 耕二
農事部技術総括	野村 哲也
唐湊果樹園技術総括	川口 昭二
指宿植物試験場技術総括	谷村 音樹
入来牧場技術総括	片平 清美
総務課長代理	飯山 久夫
農場事務係長	松尾 淳一

(2) 委員会記録

第1回：平成25年5月8日 (水) 14時30分～15時00分

- 議題 1. 平成25年度予算案の作成について

2. 平成25年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会について
3. その他

第2回：平成25年8月29日（木）9時00分～9時30分

- 議題
1. 平成24年度附属農場決算（案）について
 2. 平成25年度附属農場予算（案）について
 3. 入来牧場風力発電事業について
 4. その他

第3回：平成25年12月26日（木）14時28分～15時35分

- 議題
1. 夏季・春季休業中の農場実習日程について
 2. 入来牧場のシカ害防除研究に関する協定の申し出について
 3. その他

第4回：平成26年3月4日（火）9時00分～9時37分

- 議題
1. 残予算の用途について
 2. 指宿植物試験場気象観測装置について
 3. その他

3) 農場実習教育委員会

(1) 委員名簿

農場長（委員長）	佐藤 宗治
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
生物生産学科	
作物生産学講座	佐々木 修
〃	下田代智英
〃	一谷 勝之
園芸生産学講座	富永 茂人
〃	山本 雅史
〃	久保 達也
〃	吉田理一郎
〃	橋本 文雄
〃	清水 圭一
病虫害制御学講座	岩井 久
〃	中村 正幸
〃	津田 勝男
〃	坂巻 祥孝
家畜生産学講座	吉田 光敏
〃	大久津昌治
〃	三好 和陸
〃	岡本 新
〃	下桐 猛
〃	中西 良孝
〃	高山 耕二
生物環境学科	
環境システム学講座	岩崎 浩一
自然科学教育研究支援センター	
遺伝子実験施設	田浦 悟

(2) 委員会記録

第1回：平成25年8月27日（火）14時30分～14時45分

- 議題
1. 平成25年度後期農場実習（案）について
 2. その他

第2回：平成26年3月10日（月）9時00分～9時22分

- 議題 1. 平成26年度前期農場実習（案）について
2. その他

4) 附属農場施設等利用委員会

(1) 委員名簿

農場主事（委員長）	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
作物生産学講座	一谷 勝之
園芸生産学講座	久保 達也
病虫害制御学講座	坂巻 祥孝
家畜生産学講座	高山 耕二
生物資源化学科	樗木 直也
生物環境学科	岩崎 浩一

(2) 委員会記録

第1回：平成25年9月2日（月）14時30分～14時52分

- 議題 1. 平成25年度後期施設等利用計画（案）について
2. その他

第2回：平成26年3月5日（水）15時00分～15時55分

- 議題 1. 鹿児島大学農学部附属農場実習施設使用規則の制定について
2. 平成26年度前期施設等利用計画（案）について
3. その他

5) 農場研究報告編集委員会

(1) 委員名簿

園芸生産学講座（委員長）	山本 雅史
農場主事	遠城 道雄
作物生産学講座	下田代智英
病虫害制御学講座	津田 勝男
家畜生産学講座	大久津昌治

(2) 委員会記録

第1回：平成25年5月15日（水）9時05分～9時30分

- 議題 1. 農場研究報告編集委員会委員長の選出について
2. 鹿児島大学農学部農場研究報告原稿の募集について
3. その他

第2回：平成25年12月18日（水）16時25分～16時45分

- 議題 1. 農場研究報告第36号受付原稿の査読者の選定について
2. その他

6) 農場家畜防疫対策検討委員会

(1) 委員名簿

農場長（委員長）	佐藤 宗治
生物生産学科 家畜生産学講座	吉田 光敏
〃	岡本 新
〃	中西 良孝
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
入来牧場技術総括	片平 清美

入来牧場管理獣医師
共同獣医学部

山口 浩
出口栄三郎

(2) 委員会記録

第1回：平成25年6月14日（金）9時05分～9時50分

- 議題 1. 今年度の八重山高原星物語開催について
2. その他

第2回：平成25年12月2日（月）16時35分～17時25分

- 議題 1. 入来牧場のシカ害防除研究に関する協定の申し出について
2. その他

4 入来牧場における牛白血病ウイルス（BLV）清浄化の進捗状況

平成19年10月、入来牧場における飼養牛のBLV血清抗体価を調査した結果、検査頭数361頭のうち、陽性牛は210頭となり、全体の58%が牛白血病ウイルスに感染していることが判明した。この結果を受け、農場では平成20年1月以降、家畜防疫対策委員会を設置し、入来牧場の牛白血病ウイルス清浄化を、分娩管理および分離飼育の両側面から進めることを決定した。入来牧場では、直ちに清浄化対策を実施し、平成20年5月で陽性率51%、平成20年11月には陽性率は41%、平成23年1月には陽性率36%、平成24年2月には陽性率23%、平成24年12月には陽性率14%と着実に陽性率の低下を実現し、平成19年以降、陽性率は44ポイント低下している。平成25年11月の調査では陽性率17%となっておりBLV陽性率は平成24年度から一定数でコントロールできている状況である。現在、BLV清浄化は最終段階に入っているものの、陽性牛を集めて出荷までの間飼養している肥育牛舎では、水平感染のリスクもあることから、BLVの完全な清浄化には、まだ期間を要するものと考えられる。今後は、陽性確定牛の出荷を急ぐとともに、引き続き陰性牛の陽転を観察するため、定期的な血液検査を行っていく予定である。